

令和3年度 第2回 立川市自立支援協議会 会議概要

会議名称	第2回 立川市自立支援協議会
開催日時	令和3年10月4日（月） 18時00分～20時15分
開催場所	立川市役所 302 会議室
次 第	1. 開会 2. 障害福祉課長挨拶 参加者自己紹介 3. 自立支援協議会（全体会）委員の交代について＜資料1＞ 4. 会長及び副会長の選出＜当日資料1＞ 5. 報告事項 （1）各専門部会からの報告＜資料2＞ （2）第1回障害者施策推進委員会の議事概要報告＜資料3 当日配布＞ （3）令和2年度障害者虐待対応報告＜資料4＞ （4）児童専門部会立ち上げの進捗報告 6. 検討事項 （1）自立支援協議会の体制について（地域移行部会の存続について）＜資料5＞ （2）全体会委員の専門部会への参加について＜資料6＞ （3）自立支援協議会の運営方法について＜資料7＞ （4）第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画PDCAサイクル評価・改善管理シートについて＜資料8・資料9＞ （5）今期の共通課題と地域課題の検討について＜資料10＞ 7. その他連絡事項 8. 閉会
出席者	[委 員] 吉川委員、長谷川委員、須崎委員、鈴木委員、原子委員、遠藤委員、岩元委員、向山委員、宮本委員、木村委員、高橋委員、山田委員、石倉委員、小林（冬）委員、前芝委員、山本委員、白部委員、横平委員、水野委員、大谷委員、澤内委員、泉口委員（敬称略、順不同） [事務局] 茅沼障害福祉課長、関根障害福祉第一係長、近藤障害福祉第二係長、宮川障害福祉第三係長、阿部障害福祉第四係長、杉浦障害福祉推進係長
欠席委員	鉢嶺委員、芝委員、小林（仁）委員
会議資料	＜資料1＞ 令和3年度 立川市自立支援協議会委員名簿 ＜資料2＞ 専門部会報告書（①相談支援、②就労、③権利擁護、④地域移行） ＜資料3＞ 令和3年度第1回障害者施策推進委員会の議事概要 ※当日机上配布 ＜資料4＞ 障害者虐待対応報告書（令和2年度実績） ＜資料5＞ 令和3年度 立川市自立支援協議会の体制 ＜資料6＞ 自立支援協議会全体会委員の専門部会参加（案） ＜資料7＞ 令和3年度 第1回 立川市自立支援協議会 会議概要 ＜資料8＞ 第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画PDCAサイクル評価・改善管理シート ＜資料9＞ 第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画の目標値に対する実績（令和2年度） ＜資料10＞ 専門部会の報告書様式 ＜当日資料1＞ 立川市自立支援協議会設置要綱

1. 開会

2. 障害福祉課長挨拶

参加者自己紹介

3. 自立支援協議会（全体会）委員の交代について＜資料 1＞

[事務局説明]

令和 3 年度立川市自立支援協議会委員名簿の

番号 5 : 飯田絵里委員 ⇒ 原子英樹委員（㈱円グループ）

番号 23 : 岡田治委員 ⇒ 大谷泰造委員（立川麦の会）

任期は令和 5 年 3 月 31 日まで、辞令は机上配布。

[質疑・意見等] 特になし

[決定事項] 報告のみ

4. 会長及び副会長の選出について＜当日資料 1＞

[事務局説明]

立川市自立支援協議会設置要綱を用い、会長及び副会長 1 人を委員の互選により定めることを説明し、互選方法を指名推薦にすることを提示する。

[質疑・意見等] 特になし

[決定事項]

氏名推薦・満場一致により、会長：吉川かおり委員、副会長：長谷川敬祐委員を選出する。

5. 報告事項

（1）各専門部会からの報告＜資料 2＞

[相談支援専門部会]

障害の重度化・高齢化及び親の高齢化、福祉の人材不足、スキルアップが課題となる。

8 月に書面開催にて部会を開催。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により対面での開催が出来ていない。立川市の地域課題を受け、今後取り組む課題を集約した。10 月以降、部会の開催を予定。

[就労支援専門部会]

6 月に第 1 回就労専門部会を開催。第 2 回は書面にて開催。日頃、委員が感じている現状（コロナ禍による影響）や日ごろから感じている課題を共有。工賃アップや高齢化に関して話し合いの場を設けていく。第 3 回は 10/13 に開催予定。

[権利擁護専門部会]

7 月、9 月と部会を開催。7 月には障害者グループホーム懇談会、9 月には立川市障害者虐待防止センター講演会を実施。それぞれ関係者間での意見共有を行った。今後も、公開講座やオンラインでの懇談会を開催予定。

[地域移行専門部会]

8 月に部会を開催予定であったが、オンライン会議のホストになる事業所が見つからず 10 月に延期。前年度、地域移行専門部会を存続させるのかという課題が上がった。今後存続させるのか、全体会を通して意見を求める。活動が継続となれば、入院中の障害者へ向けた地域移行のパンフレット作成などを行っていく予定となる。

[質疑・意見等]

- ・地域移行専門部会の活動について、今までの取り組みの経過と、今後の取り組みに関して伺いたい。
 - 以前は、3 障害それぞれに沿った地域移行を目指し、研修を行っていた。現在では、市で地域移行を進めているといったメッセージを発信、病院が抱える地域移行に関する問題や課題等をアンケートで集約している。3 障害それぞれのリーフレットを作成予定。
- ・就労専門部会では就労の問題に加え、障害者の生活に関する問題も議論に上がっている。詳しく伺いたい。
 - 土台となる生活がきちんと整っていないと、就労が長く続かない。生活環境の変化に左右されてしまうため、状況変化に応じた対応に関して問題が生じる。
- ・権利擁護専門部会での、コロナ禍でのグループホームに関する課題以外に、議論が上がった内容を伺いたい。
 - まだ部会が始まったばかりのため議論は行えていない、今後、様々な内容を協議に加えていく。
- ・各部会で、聴覚障害者に関する課題等は上がったか。
 - 就労支援専門部会では、一般就労した方の定年後の日中活動サービスの利用に関して、前年度より検討をしている。聴覚障害者は福祉サービスを利用することなく、一般就労で定年を迎える方が多いため、定年後の活躍の場が広がると良い。

[決定事項] 報告のみ

(2) 第 1 回障害者施策推進委員会の議事概要報告<資料 3 当日配布>

[事務局説明]

令和 3 年 6 月 29 日に開催。配布資料を確認、報告。

[質疑・意見等]

- ・地方の入所施設は、都が管理しているものとそうでないものがある。都が管理していない施設については、都民ではあるが都のサービスが利用できない。都が地域移行の施策を進めていたが、応募が無く終了となった。長期間地方の施設で暮らしている障害者は、そこが地元となっており、現在住んでいる地域で自立をしたいという希望がある。立川市への地域移行のみを進めるのではなく、本人の希望に沿ったサービスを検討していく必要があるのではないか。
- ・特別支援学校卒業後に福祉サービスを利用する矢先、既に自宅では暮らすことが出来ないというケースがある。すぐに入所施設を探さなければいけない方が、入所後支援が途切れるのではなく、将来的に地域での生活が出来るよう体制を整えていく必要があるのではないか。
- ・緊急事態宣言の解除、感染者の減少が見られるが、いつから短期入所の利用が可能となるか。
 - 施設内での感染が引き続き見られ、クラスターが起こらないよう感染対策や受け入れの緩和措置を検討している。

[決定事項] 報告のみ

(3) 令和2年度障害者虐待対応報告＜資料4＞

[事務局説明]

令和2年度の実績について、配布資料を確認、報告。

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言に伴い、日中活動サービス、短期入所等の利用が出来ず、在宅で過ごす時間が増えた。これにより障害者と家族双方のストレスが増え、虐待通報が増加した。二度目の緊急事態宣言発令時には、市内の生活介護事業所に一律に通所を制限することのないよう虐待防止センターよりお願いをし、一定の効果があつた。

年度当初には、強度行動障害の重度の知的障害者で、養護者からの身体的虐待を繰り返し受けていた方の施設入所が決定した。

[質疑・意見等]

- ・障害者と家族双方のストレス緩和が重要であり、短期入所の利用が出来るよう、感染対策に努めつつ対策を進めていく必要がある。
- ・施設従事者の虐待が増えている傾向がある。心理的虐待については判断が難しい部分があり、どういった例があるか。
→他の利用者の前で叱る。強い言葉を使い、それを聞いていた他の利用者が不安になってしまう等が上げられる。

[決定事項] 報告のみ

(4) 児童専門部会立ち上げの進捗報告

[事務局説明]

今年度から立ち上げ。10/15に第1回専門部会を開催予定としている。

障害児が抱える課題や問題に関しては、これから協議していく。

[質疑・意見等] 特になし

[決定事項] 報告のみ

6. 検討事項

(1) 自立支援協議会の体制について（地域移行専門部会の存続について）＜資料5＞

[事務局説明]

以前より、地域移行専門部会の存続について協議を行ってきた。今年度で廃止にするのではなく、今期(令和3年度・4年度)は存続として、現在掲げている課題や目標に努めていく。その間、来期に向けた引継ぎを行ってはどうか、提案する。

[質疑・意見等] 特になし

[決定事項] 提案通りに決定。

(2) 全体会委員の専門部会への参加について＜資料6＞

[事務局説明]

自立支援協議会全体会に参加している委員の専門部会参加を検討。それぞれの委員には、現時点で参加希望の部会を調査しており、現時点で数名参加が決まっている。

専門部会委員以外の全体会委員はオブザーバーとしての参加となる。部会に対して要望や要求をするのではなく、協議の中で出てきた課題や問題点に関して、意見や知恵を出し合うことを目的としている。

[質疑・意見等] 特になし

[決定事項] 報告のみ

(3) 自立支援協議会の運営方法について<資料7>

[事務局説明]

自立支援協議会(専門部会・運営会議・全体会)の活性化を図るには、情報を共有しあうことが大切であるため、各協議体全体を通した、意見や情報をフィードバックされる仕組みを構築する必要があるのではないか、との方向性が確認された。

そのため今期は、各部会活動時に意見として出た課題や困りごと、成功例などを専門部会などから出してもらい、全体会で意見やアドバイスをもらうといった取り組みはどうか、提案する。

[質疑・意見等] 特になし

[決定事項] 提案通りに決定

(4) 第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画PDCAサイクル評価・改善管理シートについて ＜資料8・資料9＞

[事務局説明]

障害福祉計画の進捗状況を振り返り、今後どういった観点や行動が必要となるのか協議会の意見として取りまとめたもの。資料8はたたき台として、第2回自立支援協議会運営会議で出た意見原案を記載。協議会としての意見の方向性がこのままで良いか、また他に記載すべき内容が無いか、10/12(火)までに各委員に確認を頂く。

[質疑・意見等] 特になし

[決定事項] 10/12(火)までに、事務局へ意見を提出。

(5) 今期の共通課題と地域課題の検討について<資料10>

[事務局説明]

今期の共通課題に関して、第1回自立支援協議会運営会議でアンケートを実施。共通課題を見直したほうが良いが3名、そのままが良いが5名となった。現段階では、共通課題として掲げている「○障害の重度化・高齢化及び親の高齢化、○福祉の人材不足、スキルアップ」に関して、令和3年度は継続とし、令和4年度からは児童を含めた課題の設定や文言を変えるなど、新たな課題の設定を行っていく。共通課題として掲げている「○障害の重度化・高齢化及び親の高齢化、○福祉の人材不足、スキルアップ」に関して、令和3年度は継続とし、令和4年度からは児童を含めた課題の設定や文言を変えるなど、新たな課題の設定、見直しを行っていく。

また全体会では、各専門部会での困りごとや成功例を共有していくこととなった。そのため、専門部会報告書の書式を変更し、全体会での活用を図っていく。

[質疑・意見等]

- ・相談支援部会ではコロナ禍ということもあり、アンケートの実施や就労専門部会との連携が図れなかった。困りごと相談ガイドのパンフレットが完成。今後も内容を更新していく。
- ・相談支援事業所は定期的に利用者やその家族との面談を行っているが、コロナ禍での動きについてお聞きしたい

→昨年の4・5月の緊急事態宣言では、面談や訪問を避けるといった動きがあった。オンラインでのモニタリングが出来ず、感染対策を取りながら利用者やその家族の状況を判断して、臨機

応変に対応している。

- ・医療的ケアが必要な障害者が年齢を重ね、障害福祉サービス以外に、医療との連携が必要なケースが増えている。
- ・コロナ禍では、少しの発熱であってもヘルパーの利用が止まってしまうケースが増えている。随時利用の調整や各事業所への連絡を行っているが、対応が困難である。
- ・計画相談員のスキルアップを感じている。様々な状況や事例に合った解決策を探る際に、どういった対応を取るべきか技量不足を感じる場面がある。相談支援事業所間でのネットワークを構築していきたい。
- ・コロナ禍では、地域移行を進めている方の支援や面談等が中断してしまう。退院予定、退院日が決まった方の地域移行がスムーズに行えないというケースが増えている。病院ごとに、退院に向けたメソッドやコロナ対策が違うため、それぞれに合った対応を取ることに課題がある。
- ・コロナにより、医療が必要な障害者への支援が止まらないよう様々な対策を講じている。従業員とその家族を感染から守る対策も必要。福祉職にかかわることで、障害者ひとりひとりの生活やその家族を含めた家庭環境に応じた、感染対策と支援が求められる。
- ・今回の協議の中で「高齢化」というキーワードが上がっている。障害者の家族、その親が安心出来るようなサービスに出会えていない、周辺の支援者が適切なサービスを組み立てていないのが原因と考えられる。この問題の解決に取り組むのが、自立支援協議会ではないだろうか。また以前より、入所施設ではなく地域移行を進める動きが目立っているが、入所施設には入所施設の役割がある。入所施設を否定するのではなく、協議会で施設の話題を取り上げることで、障害者やその家族が利用しやすい環境を整備する必要がある。自立支援協議会ではそういった協議が出来ることを望みたい。
- ・今の時代に合った、求められる入所施設の在り方について考える必要があると感じた。コロナ禍でグループホームの介護体制に危機感を感じている。事業所スタッフが泊まり込みで支援に当たるといった状況が続いた。支援の幅を広げられるように、場所と人員の確保が課題となる。
- ・福祉に対しての社会の動きを変えていかなければいけないと感じている。
- ・就労専門部会では、工賃のアップが課題となっている。また、障害者がこういった仕事、作業を行っているか、地域に広める機会を増やしていきたい。授産製品の販売場所の確保をしていきたい。コロナ禍により、就労支援を利用している方の実習先が減っている。

[決定事項] 説明通りに決定

7. その他連絡事項

[事務局説明]

次回、第3回自立支援協議会は令和4年3月7日(月)を予定。

[質疑・意見等]

聴覚障害への理解が広まるよう、聴覚障害の方が様々な部会に参加できるようにして欲しい。

[決定事項] 報告のみ

8. 閉会